

有明海の塩分変化について

(1) 他海域との比較

有明海の塩分濃度分布と東京湾及び伊勢湾の塩分分布の比較を行った。各海湾の塩分濃度分布の状況は「日本全国沿岸海洋誌（日本海洋学会沿岸海洋研究部会編，1985）」から引用した。比較時期は陸水の影響の大きい夏季（8月または7月）とし、水域区分は湾奥、湾央、湾口の表層域に分けた。

陸水の影響を強く受ける湾奥域において、有明海は東京湾と同程度の塩分濃度であり、伊勢湾に比べると高かった。

表-1 東京湾、伊勢湾、有明海の夏季塩分量の比較

	塩分濃度 (psu)			観測期間	備考
	湾奥域 ^{注1}	湾央域	湾口域		
東京湾	~28.0 (~16Cl‰)	28.0~28.9 (15.5~16Cl‰)	29.8~31.6 (16.5~17.5Cl‰)	1947年~ 1974年	図-1に示す水平分布 図より引用。 ^{注2}
伊勢湾	~21.7 (~12Cl‰)	21.7~23.5 (12~13Cl‰)	27.0~28.9 (15~16Cl‰)	1950年~ 1973年	図-3に示す水平分布 図より引用。 ^{注2}
有明海	~29	29~31	31.5~32.5	1972年~ 1981年	図-5に示す水平分布 図より引用。7月5m 深の塩分濃度
(参考) 海水	34.11				黒潮 (32.5° N, 135.5° E) の塩分濃度 (平成29年理科年表 p635)

注1) 湾奥域の範囲は次のとおりとした。

- 1) 東京湾：多摩川河口と千葉県袖ヶ浦市と木更津市の境を結んだ線以北の海域（環境省，2009，東京湾における特別域の検討について）
- 2) 伊勢湾：三重県磯津漁港と愛知県鬼崎を結んだ線以北の海域（日本海洋学会沿岸海洋研究部会編，1985，日本全国沿岸海洋誌，p521 透明度の海域区分図より）
- 3) 有明海：佐賀県竹崎と福岡県三池港を結んだ線以北の海域（日本海洋学会沿岸海洋研究部会編，1985，日本全国沿岸海洋誌，p869）

注2) 東京湾および伊勢湾は8月表層の塩素量を換算。塩分換算はCl濃度×1.80655

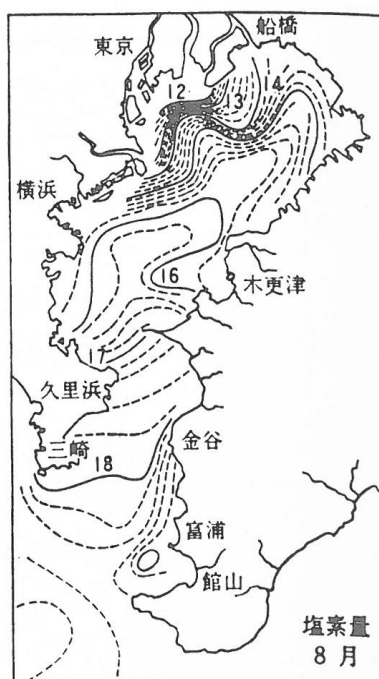


図-1 東京湾の塩素量 (Cl‰) の水平分布 (8月) 1947~1974 年平均

出典：宇野木早苗・岸本元彰，1977，東京湾の平均的海況と海水交流，Tech.Rep., No.1，理研海洋研究室，89pp

日本海洋学会沿岸海洋研究部会編，1985，日本全国沿岸海洋誌，第9章東京湾II物理，pp354-356

平成 20 年 7 月 (表層)

平成 21 年 8 月 (表層)

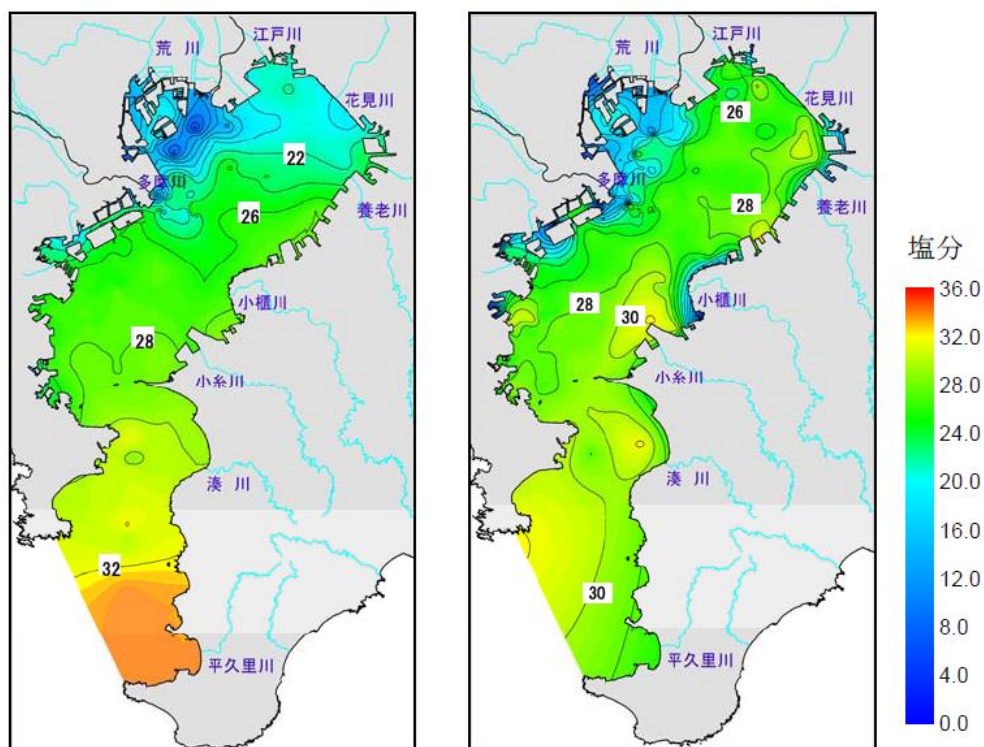


図-2 近年の東京湾の表層塩分量 (psu) の水平分布 (東京湾一斉調査)

出典：東京湾再生推進会議モニタリング分科会ほか2機関，2009，東京湾水質一斉調査結果〔速報〕について，p10

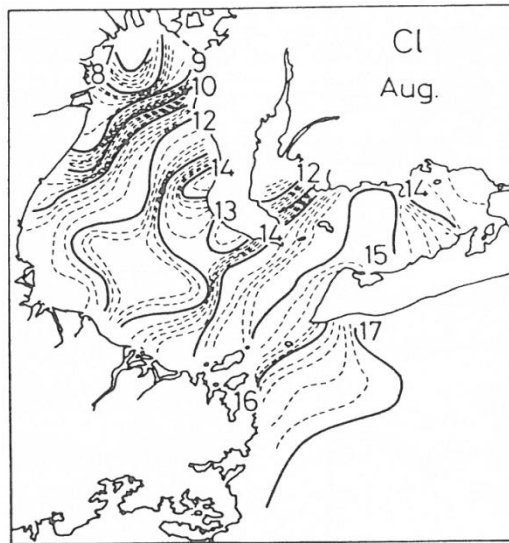


図-3 伊勢湾の塩素量 (Cl‰) の水平分布 (8月) 1950年~1973年平均
 出典：宇野木・岸野元彰・岡見登, 1974, 伊勢湾の平均的海況と交流要因, 社団法人産業公害防止協会
 日本海洋学会沿岸海洋研究部会編, 1985, 日本全国沿岸海洋誌, 第13章伊勢湾・三河湾II物理, p518

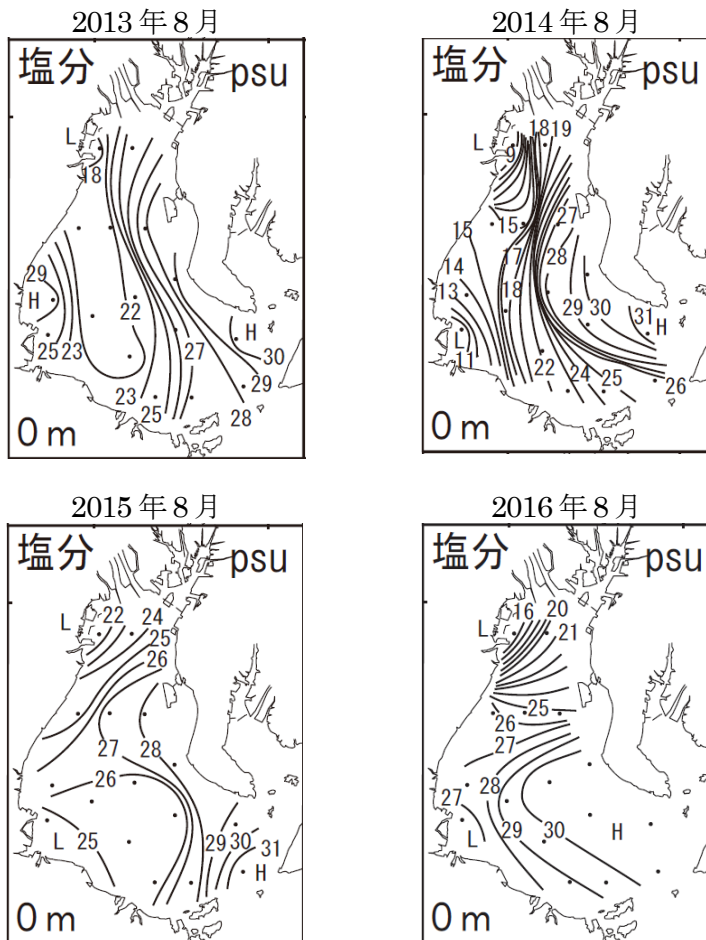


図-4 近年の伊勢湾の表層塩分量 (psu) の水平分布 (浅海定線調査結果)
 出典：三重県水産研究所 鈴鹿水産研究室、浅海定線観測結果 (2013~2016)

